

備後

教区報

第 167 号

2019(令和元)年5月30日

結ぶ絆から、広がるご縁へ
-From tying bonds to great encounters-

第 13 回少年連盟子ども大会
ウォークラリー

CONTENTS

- ◇少年連盟ウォークラリー
- ◇視点一「貧困の克服にむけて」
メラウキャン教育支援の会
- ◇ルポー思春期の若者との関わりの
必要性について
- ◇活動情報&インフォメーション



福山市 善行寺
鞆の浦

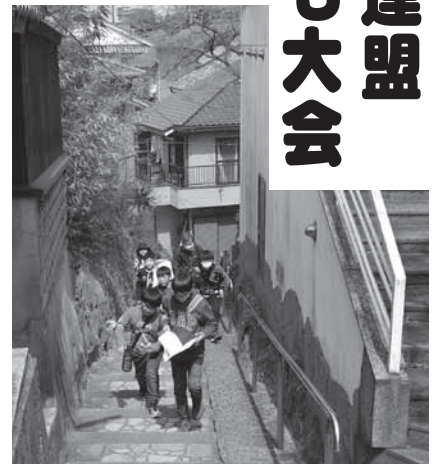


備後教区少年連盟 第13回子ども大会

去る3月29日(金)、備後教区少年連盟(脇本寿真委員長)主催のもと第13回こども大会ウォークラリーを開催した。

今回は沼隈南組善行寺(熊谷和美住職)を会場に、鞆の浦を散策するコース。当日は教区内24寺院より30チーム、引率保護者も含め220名の参加があった。天候にも恵まれ、桜咲く鞆の浦の風情ある街並みをコマ図たよりに楽しく散策した。

ウォークラリーは、毎回多くのスタッフの方々にサポートいただいて開催している。今回も、春休みを利用してお手伝いいただいた大学生も含む約40名のスタッフが、コース上のチェックポイント管理や交通整理、レクリエーションや昼食配布など参加者が安心してウォークラリーを楽しめるようにと、大会運営に携わっていた。



三谿組 明覚寺
ダイヤチーム

御調東組 照善寺
どんぶらこっチーム

深津組 崇興寺
崇興寺①

比婆組 圓正寺
三次組 西善寺
三次組 西覚寺
御調東組 照善寺
御調西組 正明寺
御調西組 専光寺
御調西組 法泉寺
御調西組 光徳寺
世羅組 真行寺
世羅組 法泉坊
世羅組 光永寺
世羅組 照光寺
世羅組 善行寺

参加寺院

深津組 崇興寺
深津組 光明寺
深津組 真光寺
深津組 慶満寺
鴨川北組 照専寺
鴨川北組 寶泉寺
沼隈南組 南禅坊
沼隈南組 南光坊
芦田組 西法寺
三谿組 明覚寺
三谿組 善徳寺

視点

「貧困の克服に向けて」の取り組み②

メラウーキャンプ教育支援の会

「交流・支援は学びの場」

今期より宗門全体として取り組む実践目標「貧困の克服に向けて」Dana for World Peace「子どもたちを育むために」を備後教区重点プロジェクトとして取り組むこととなった。教区内において支援活動が続いている団体をシリーズとして紹介する。今回は、ビルマ難民のメラウーキャンプの中にあるヤウンニーウー(日の出)学校を2008年より毎年訪問され、交流を続けている「メラウーキャンプ教育支援の会」(小武正教代表)を紹介する。

私たちメラウーキャンプ教育支援の会は、毎年2月に、タイ国境地帯のメラウーのジャングルの中にあるビルマ難民のメラウーキャンプの中にあるヤウンニーウー(注1)学校を訪問し、交流を続けています。

この学校はもとと1988年

にビルマの民主化を求めて立ちあがった学生たちが国軍に追われてジャングルに逃げ込み、自分たちの子どもの教育の場として1990年始めにつくったのがはじまりです。各地を転々として、2000年はじめにこのメラウーキャンプ内にできました。その教育レベルの高さから、近隣の少数民族の子どもたちが学ぶようになり、2019年の時点で小学校から高校生まで580人あまりの生徒たちがいます。

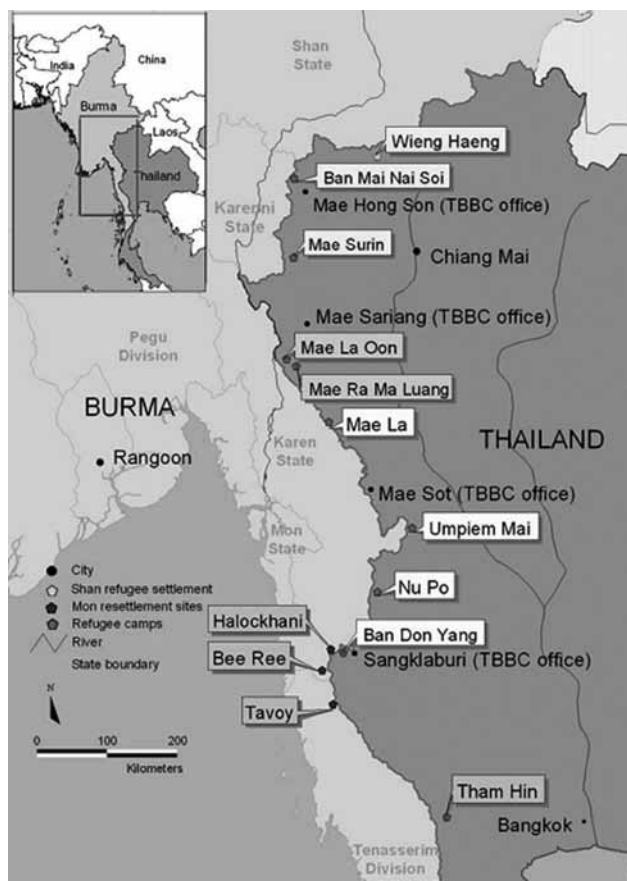
教育が生きる力

難民キャンプは、タイの軍隊が出入り口を管理しており、自由に外へ出ることはできません。一言でいえば、収容所といえはわかりやすいかと思います。中では、農作業をすることが許されず、仕事はありません。キャンプの子どもたちは、キャンプの外にいれば、

自分の力をたよりに生きるほかありません。「教育こそが子どもたちの未来を開く」として、学校の教育に使ってもらうために、日本国内の支援金を届けてきました。

ビルマの民主化はなお遠く

2016年、選挙によりアウン



▲ヤウンニーウー(日の出)学校



▲ヤウンニーウー(日の出)学校に通う子どもたち

ビルマ政治難民・ココラットさんと 日本の学生たちと一緒に学びの場として

サンスーチーさんのNLD(ビルマ国民民主連盟)が政権をになうようになりましたが、軍事政権時代につくられた憲法により、防衛大臣、警察長官、法務大臣は軍人枠、さらに国会議員の4分の1は軍人枠で、4分の3以上の国会議員の賛成による憲法改正ができず、大統領顧問のスーチーさんは実際の実権を握ることができていません。ミャンマー軍と戦ってきた21ある少数民族の武装勢力との停戦

協定はまだ10民族に過ぎません。カレン族、モン族、シャン族、それぞれの子どもたちの故郷には、いまだ地雷がうまつており、和平調停交渉がおこなわれているとはいえ、国軍と少数民族の武装勢力がむかいあっているところに子どもたちは帰ることができません。

さんが案内してくれます。それにパステルという難民問題に取り組む立命館大学の学生たちも毎年2人から3人一緒に訪問し交流します。

キャンプの中にみんなが作ったお寺があります。「先の見えない困難な中で、如何にして共に生きるか？」そこで手をあわせる姿に私は文字どおりサンガを感じています。私たちにあって、この交流は大きな学びの場なのです。

(記事・メラウーキャンプ教育支援の会代表 小武正教)

(注1) 日の出

ルポ

思春期の若者との関わりの必要性について

好奇心が旺盛で無邪気な時期

「青年教化活動」の取りくみとして、全寺院で進んでいる「キッズサンガ」をさらに展開するため設置されたのが「子ども・若者で縁づくり」である。現在「子ども・若者で縁づくり」推進室マネージャーである藤間幹夫住職(深津組光明寺)に「思春期の若者との関わりの必要性」、宗派が取りくんでいる「思春期・若者支援コーディネーター養成研修会」について寄稿いただいた。

「ギャングエイジ」という言葉をご存知でしょうか。小学校3年生頃から6年生頃までの年代の子どもを指す言葉ですが、物騒な意味はなく、その年代の子どもたちが、親や大人の干渉から逃れ、友だちや仲間(ギャング)をそれまで以上にともめ、グループを作って遊ぶようになる、ということとをあらわす言葉です。この年代の子どもたちは、概ね活発でノリも良く、好奇心が旺盛で無邪気な

ため、追いかけてこをするだけで楽しかったり、子ども向けの法話を時に真剣に聞いたりもします。

ギャングエイジから思春期へ

しかし、ある意味で大人にとつて接しやすかったギャングエイジの子どもたちが、思春期へと移行するにしたがつて、次第に雲行きが怪しくなってきます。口数が減り、無邪気さは消え、これまで通っていた土曜学校などにも欠席がちになり、そして、小学校を卒業するのとはほぼ同じタイミングで、お

寺とのご縁も、いったん「卒業」になってしまいます。

しかし、私自身の実感としては、中学生や高校生になってもお寺とのご縁をつなぎ続けることは十分に可能であり、特に、小学生までの間にすでにご縁のできている人は、なおさらそうであると言えます。ただし、中高生の若者たちは小学生のように分かりやすく反応してはくれないので、私たちの側は、そのような期待を持たない方がよいと思います。

若者たちが私たちのことを、「親や学校の先生とは違った、また社会の常識とも異なったモノサシを持った、ちよつと変わった、面白いことを言う大人だな」と認識してくれれば、それだけのご縁でも充分なのではないでしょうか。

人生における重要な時期

思春期は、子どもと大人の中間の時期であり、あらゆる知識と経験をスポンジのように吸収しつつ、「自分は何者か」、「人とう違うのか」といったことに悩みながら、自己（アイデンティティー）を確立していく、人生における最も重要な時期です。合理的、科学



的な思考を身につけていき、伝統や権威的なものへの反感を抱くこともありますので、比較的素直な小学生とは違ったアプローチが必要で、この年代は、人生そのものを問う教え、何があってもだいじょうぶであるという安心を、最も必要としている時に、正しく受けとめることができる年代であると言えます。

そのものを問う教え、何があってもだいじょうぶであるという安心を、最も必要としている時に、正しく受けとめることができる年代であると言えます。

思春期・若者支援コーディネーター養成研修会

各方面の専門の方より学ぶ

宗派の子ども・若者ご縁づくり推進室では、様々な取り組みを行っているのですが、そのうちのひとつとして、思春期・若者支援コーディネーター養成研修会を開催しており、現在は2期目の途中です。性

(性教育、性暴力など)、セクシャルティ（LGBT、同性愛）、薬物依存、リストカット、児童虐待、不登校、自死などの最新の情報や取り組みを、専門の医師や支援組織の代表者から聞くことができる、他に類を見ない研修会です。

お互い不完全な人間

この研修会の特徴は、受講する大人が「自分も同じようなことで悩んでいた」あるいは「もし自分が同じ境遇であったならば」というまなざしを持ちながら、「お互いに不完全な人間」として、相手を可能な限り理解しようとする方向性が貫かれていることです。このベースとなっているのは浄土真宗のみ教えです。

立場ゆえに、問題への解答を示さなければならないと思いますが、複雑な事情や感情を抱える上記のような生きづらさの問題は、決して私たち単独で解決できるものではありません。したがって、私たちに必要なことは、まず「知る」ことであり、その上でこうした人たちを理解し、継続的につきあいながら、必要に応じて専門家などへとつないでいくことです。このようなことができる僧侶、寺族が一人でも多く増えていけば、と思っています。



▲養成研修会の様子

思春期の若者全員が生きづらさを抱えているわけではありません。しかしながら、家庭環境や性自認（LGBT）のことなどで、人に打ち明けられない生きづらさを抱えている若者も決して少なくありません。私たちは、僧侶、寺族という



青年布教使による法話 第3回

揺らぐことのない願い



中組 光栄寺
佐藤 知水
さとう ちすい

昨年夏、真宗大谷派の住職である叔父が63歳を一期とし往生の素懷を遂げました。

その後、叔父の姉にあたる叔母から「知水、阿弥陀様の『本願』って何なの?」という質問を受けました。

いきなりどうしたのかと思いますが、叔母は叔父の死を通してどうしても気になることがあるというのです。

それは叔父が最後に残した次のような寺報の文章でした。

「病が再発、転移してしまいました。少し元気になったかなと思っていたのでシヨックでした。本当のことを言うと、まだ現状を受け入れることができません。しかし、本願が揺らぐことはありません。」

叔母は叔父を見舞い看取ってく中で「弟はお寺の住職をしていたけど、最後信仰心はどうだったのだろう?」という疑問が浮かんだそうです。そして「弟は人生の最後、確固たるものを得ていたらしいのに」と思っていたと私に打

ち明けてくれました。

しかし、後で寺報の言葉に出遇って「自分の心は揺らいでも決して揺らぐことがないものがあるの?『本願』って何?一体どんな願いなの?」という問いが生まれました。

浄土真宗では死に様を問いません。なぜなら叔父の言うように、阿弥陀様のご本願は決して揺らぐことがないからです。

ご本願とは「生きとし生けるすべての者を、必ず浄土に生まれさせ仏にする」という阿弥陀様の願いです。その願いは、願いのままにとどまらず成就され、今私たちがお称える「南無阿弥陀仏」というお念仏としてはたらかれています。

こちらが確固たる信仰を確立して救われるのではなく、こちらの思いがどんなに揺らごうとも、そのまま救いとつてくださいます。

叔母はお寺に生まれながらも、お寺を離れ、教職について仕事をする中で、これまでなかなかお聴聞するご縁がなかったと言いま

す。

きっと叔母は弟の最後のことを思いながら、何度も何度もこの寺報を読んだのだろうと思います。

大好きな弟との別れ、それはとても悲しく寂しいものです。しかしその中にも、お念仏を慶んだ弟が遺した言葉に出遇い、この問いが生まれたのです。

私はこの問い自体が、阿弥陀様のご本願のはたらきの中にある尊い問いと味わわせていただきました。

叔母は近頃法話会でお聴聞するようになったそうです。私にとっても、叔母にご本願についてどのようにお話ししようかと考える中、私自身に向けられた、揺らぐことのない阿弥陀様の願いとはたらきを知らせていただいた大切なご縁でした。

勤式研修会―仏華を習う

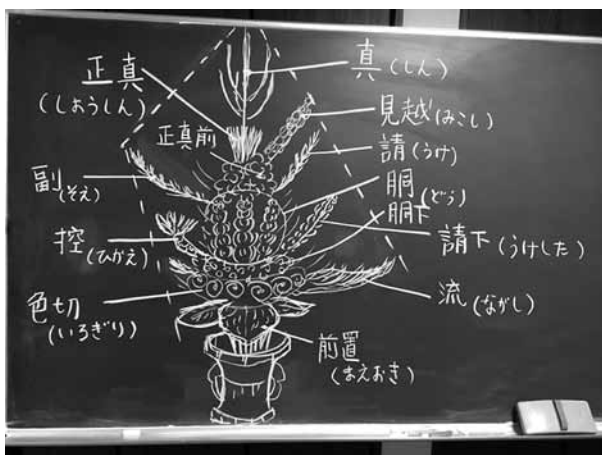
2月14日(木)本願寺備後教室にて、平成30年度後期勤式研修会が開かれた。今回、講師に本願寺開明社、有限会社「花新」会長・水本敏雄先生をお招きした。80歳になっても、その技の伝承に情熱を傾けておられる先生。そして、それを直に学ぼうとする、多くの人々が教室に集った。

この日のテーマは、「寺院における日常の仏華の実践。」藤田徹信教区勤式指導員の「お寺の皆さんに、より基本に忠実でありながら、出来るだけ簡単に仏華に親しんで欲しい。」という思いが結実した。当日、或いは準備段階において、備後教区仏華研修会のメンバーが藤田指導員をサポートした。研修会は午前、午後の部と入れ替え制で行われたが、どちらも男女問わず多くの参加があり、真剣な眼差しで学んだ。参加者は、「研修内容も充実していたが、隣室の本格的な仏華と、技法の展示が分かりやすく、素晴らしかった。」と、口々に言っていた。

そして、研修の終わりに「今日

習ったことを、それぞれのお寺へ戻ってから、実際に手を動かして繰り返し実践してください」と、水本先生が述べられた。

最後は「教区内有志による仏華練習会に参加してください。一緒に、本願寺華方の匠の技を少しずつでも、学ばせていただきます。華を際立たせようとすると、その背後の枝や葉がいかに大切であるかが見えてきます。」と、藤田指導員が締めくくった。



▲水本先生お手本の立華



▲水本敏雄会長



▲藤田徹信勤式指導員

僧侶研修会

教区内僧侶の研鑽を図る2018(平成30)年度備後教区僧侶研修会が、2月4日(月)、御調東組照源寺様(久本晃道住職)を会場に開催され、61名の僧侶が参加した。

講師に、浄土真宗本願寺派総合研究所副所長・本願寺派司教満井秀城住職(安芸教区佐伯西組西教寺)をお迎えし、『念仏者の生き方』を一人ひとりが受けとめていくために』と題し、講義をいただいた。

講義では、第25代専如門主伝灯奉告法要に際してのご親教である『念仏者の生き方』について、ご教示の要点や、背景にあるうと考えられる教義上の論理などを丁寧に解説された。その中で、「私たちに他を救う力がなく、他力だから何もしくなくていいと胡坐をかくことは許されない。他力の報謝とは、如来様のお慈悲の力を私達一人ひとり



が身に受けて、そのよろこびをご報謝の思いで出来ることを精一杯させていただくこと。自力は、自分のやったことが何かしら往生や成仏の役に立つと思うこと。つまりは自分の仕事を手柄にすることが自力。他力の報謝は、返しても返しきれない如来様の御恩に報い、出来ることを精一杯させていただく生き方である。」とお話された。

『念仏者の生き方』のお心を、私たち一人ひとりが確かに受け止め、そのお心を行動に移し、さらにそのお心を私たちもお伝え出来るよう、理解を深めることが重要であることに気付かされた研修会であった。

過疎対応支援活動報告

組巡回訪問を実施

備後教区の佐武晃正過疎対応支援員(神石組光福寺住職)を中心に、過疎問題について聞き取り面談を行う組巡回訪問を実施した。

組、比婆組、三次組、世羅組の4組の組長宅を2日間に分けて訪問した。



▲比婆組へ訪問
▼三谿組へ訪問



面談には、組長はじめ、副組長、組内御法中方にご出席いただき、組で抱える問題点や過疎化の現状、組内にて現在問題を抱えている寺院(合併解散や寺院後継者問題等)、組内にて取り組まれている過疎対策推進事例(寺おこし、離郷門信徒に対するアプローチ等)について、そして今後の対応に関する意見提言をいただいた。

2019年度中に全組を訪問し、各組の面談内容を精査取り纏めのうえ、教区としての対応策を検討していく。



▲三次組へ訪問
▼無住になっている世羅組明讃寺



News & 活動情報



貧困についての基礎知識

門信徒会

去る2月12日(火)本願寺備後教堂にて教区門信徒のつどい(子ども・若者ご縁づくり公開講座併催)を開催した。この度宗門全体で取り組む実践目標として策定された「貧困の克服に向けて」Dana for World Peace～子どもたちを育



▲岡崎仁史先生



▲堀浄信先生

むために」を周知するため、今の子どもたちを取り巻く現状について、そして貧困についての基礎知識を学ぶ研修会に教区内僧侶寺族及び門信徒71名が参加した。

児童養護施設光明童園理事長の堀浄信先生には、施設の活動を通して今の子どもたちの置かれている現状や環境についてお話いただいた。広島国際大学名誉教授の岡崎仁史先生には、社会福祉士として様々な貧困支援を行ってこられた経験から、貧困の定義や、お寺の関わり方や可能性についてお話しいただいた。その後講師お二人にも同席いただいたの全体会にて各種意見交換を行った。

同朋三者懇話会

同朋社会部

2月15日(金)、「同朋三者懇の歩みに学ぶ基礎講座」が本願寺備後教堂にて開催された。

小武正教同朋三者懇話会委員より、水平社設立以来、『観経』の「是旃陀羅」の一言に対して、削除が求められる中で、2013年に同朋三者懇話会に提起された経緯を始め、その問いにどのように答えていくか、備後教区同朋三者懇話会委員の視座を学ぶ一日となった。

ご旧跡を訪ねて

組長会

2月18日(月)、19日(火)、組長会(小島照行代表)では、任期満了を来年に控え、築地本願寺参拝を兼ねた親鸞聖人関東ご旧跡をめぐる研修旅行を行った。今回は、組長及び副組長、組長経歴者への呼びかけをし、11名の参加があった。1日目は広島空港から空路で東京に入り、バス移動で茨城県へと

向かった。まず、関東二十四輩の筆頭に挙げられる性信房の報恩寺(下総)へ参拝し、続いて、伝統のある高田門徒の本寺である専修寺(高田)、親鸞聖人が20年の居住し『教行信証』執筆の地である西念寺(稲田)へと参拝し、夜は大洗海岸にて宿泊した。

2日目には、明法坊弁円によって創建された上宮寺(米崎)へ参拝したのち、東京に戻り築地本願寺を参拝、新しく運営されている納骨堂や施設を見学した。関東に親鸞聖人ゆかりの寺院は多くあり、2日間の限られた時間ではあったが、今回任期の組長を中心に旅行を行うことができ、実り多い研修となった。



▲組長会研修旅行 高田専修寺にて

「自死を考える学習会」

同朋社会部

「自死を考える学習会」が2月26日(水)、本願寺備後教堂にて開催された。

講師には、岡野里美さん(自死遺族の会・びんご会員)をお招きし、ご自身が経験されたことをお話しいただき、自死の実相について考える機会となった。

連研履修者のつどい

門信徒部会

去る3月1日(金)本願寺備後教堂にて連研履修者のつどいを開催した。「私にとって『連研』とは」をテーマに、開会式後の体験発表では、昨年中央教修を修了され、門徒推進員に登録された方と、長年門徒推進員として活動されてきた方の2名に発表いただいた。それぞれ組連研から中央教修、修了後の教区・組・寺院での活動について丁寧にお話いただいた。

その後、志摩田真生連研中央講師より問題提起をいただき、午後

より3班に分かれての話し合い法座を行った。参加者各々の連研について振り返り、中央教修でどのような話をしてみたいかなど、門徒推進員や各組連研担当者も交えて活発な話し合いを行った。

「ほほえみ講座」開催

仏婦

3月3日(日)、若婦人研修として「ほほえみ講座」を開催し、32名が参加した。昨年の線香づくりに引き続き、今回は「念珠づくり」に挑戦。普段何気なく使っているが、自分で作った念珠にはひとときわ愛着が出てくる。また、作った念珠で家庭のお仏壇やお寺への参拝時に手にかける機会が増えることを願う企画である。大人だけでなく、一緒に参加した子どもたちの苦戦しながらも一生懸命に珠に糸を通している姿が印象的だった。

午後は、栗原一乗布教団員(世羅組浄楽寺)が「一番すなおになれる場所」と題し、若い世代へ向けた分かりやすい話でお取次ぎされた。仏教に親しみをもち、お寺



▲腕輪念珠づくり

の必要性を感じてくれる若い世代が、一人でも増えるよう願う話であった。

最後に、全員で歌った仏教讃歌「あみださま」の歌声が本堂に響きわたり、和やかな雰囲気の中、閉会した。若婦人専門委員会では、今後も充実した内容で講座を継続していけるよう企画していく。



▲栗原一乗布教団員

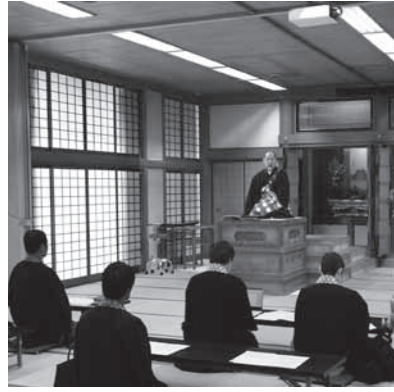
6日 おつとめ教室・勤式練習会
(5日 広島別院)

布教団

青年布教使研修会

1月28日(月)、本願寺備後教堂にて「青年布教使研修会」が行われた。

講師に岡部正顕布教団員(沼隈南組南泉坊)をお迎えし、『ほとけさまの音聲 凡夫の音聲』と題して、高座においての作法、心構えをご教示いただき、「語る」ことの大切さを学ぶ研修会となった。



▲岡部正顕団員より作法を学ぶ

部門別・実践運動研修会

2月27日(水)、「布教団部門別・実践運動研修会・臨時総会」が本願寺備後教堂で行われた。午前中、実践運動研修会に岡崎秀麿上級研

究員(総合研究所)にお越し頂き、『日本における「貧困」について』ががんばれない子どもたち』をテーマに講義を頂いた。

午後からの部門別研修会には、熊原博文常任委員(布教団連合・東京教区埼玉組正善寺住職)をお招きし、『初めて法話を聴聞される方々へー都市開教の現場での気付き』と題して、社会状況が急速に変化する中、自身が聴聞させて頂くことの大切さを教示頂いた。



▲岡崎秀麿研究員

▼熊原博文講師



総会・幹部研修会

仏婦

4月12日(金)、仏教婦人会連盟(榎平敬子委員長)では総会・幹部研修会を学びの館ローズコム(福山市)で開催し、単位会長など258名が出席した。総会では事業決算報告及び事業計画予算が承認されたのち、本年8月末サンフランシスコにて開催される「第16回世界仏教婦人会大会」について現況報告がなされた。備後教区からの団参加には26名が参加予定。

午後の研修では、ご門主ご親教「私たちのちかい」について、安部敏孝師(安芸教区高田東組圓光寺住職)が研修を行い、仏教婦人としての味わいや、平素の活動に生かしていくべきことなどがわかりやすく語られた。



▶総会の様子

7日	同朋三者懇話会 (福山人権交流センター)
8日	門推三役会
9日	自死遺族の会
11日	教堂常例法座
12日	ご縁づくりサポーター協議会
	門信徒のつどい
13日	(ご縁づくり公開講座) 仏婦役員会
14日	後期勤式研修会
15日	同朋三者懇歩みに学ぶ基礎講座
	寺婦役員会
	同朋社会部会
16日	若婦委員会
18日	組長会旅行(20日 関東方面)
19日	青年教化指導員研修会 (20日 宗派)
20日	IT専門委員会
22日	常備会
	災害対策本部会議
23日	寺院仏壮単位会結成にむけた研修会(24日広島管区)
26日	自死を考える研修会
	同朋社会部
27日	副団長会議・布教団臨時総会・実践部門別研修会
3月	
1日	連研履修者のつどい
3日	ほほえみ講座

総会研修会

仏 壯

4月14日(日)、仏教壮年会連盟(甲田正規理事長)では総会研修会を開催し、単体会会長など61名が出席した。

総会では事業決算報告及び事業計画予算が承認され、全国仏教壮年大会の引き受けについて、期日は2020年10月31日に決定した旨、報告があった。また、役員の元廣清志理事(御調東組光林寺)が退任し、新しく清竹政志理事(御調東組照善寺)が就任した。

午後の研修では、昨年11月に教示されたご門主ご親教「私たちのちかい」について、安部敏孝住職(安芸教区高田東組圓光寺)が研修を行った。



▲安部敏孝講師

各法人から県庁(所轄庁)への書類提出期限は、**7月31日**です。

◆広島県の寺院

<提出先>〒730-0011 広島市中区基町10-52
広島県庁内 環境県民局 学事課 Tel082-228-2111

◆岡山県の寺院

<提出先>〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6
岡山県庁内 総務部 総務学事課 Tel086-224-2111

※未提出の場合、10万円以下の過料処罰金が発生します。お忘れなきようご留意ください。



こらえとる

以上に

こらえてもろお
とつたのお

悲のにやあ

ところに

阿弥陀はたたん

まあ そがに

はぶてんさんな

「備後弁伝道ポスター」より

製作 備龍会

1セット(6枚) 200円

※教務所にあります

4日	同朋社会部会
5日	保育実行委員会
6日	教堂責役総代会
7日	ウオークラリー下見会議
8日	過疎支援員巡回(三谿組世羅組)
9日	第21回真宗講座
10日	教区報委員会
11日	教化連絡協議会(8日四州)
12日	過疎支援員巡回(比婆組三次組)
13日	仏青連盟役員会
14日	常例法座
15日	連区実践協議会(12日山陰)
16日	おつとめ教室・勤式練習会
17日	災害ボランティア研修会
18日	(宗派)
19日	参与会
20日	仏壮理事会
21日	門徒推進員世話人会
22日	実践運動研修会
23日	教区会
24日	得度習礼講習会(26日)
25日	教務所長会(宗派)
26日	得度考查
27日	組長会
28日	ハンセン病現地学習会
29日	ウオークラリー大会
30日	(沼隈南組 善行寺)
31日	広島管区支部矯正教化連盟研修会
	(広島別院)

今後の予定

6月

2日 仏青連絡協議会(～3日 備後教区)

3日 同朋三者懇話会
(尾道人権文化センター)

5日 寺婦総会

7日 門徒推進員のつどい

11日 教堂常例法座

12日 おつとめ教室・勤式練習会

18日 ビハーラ総会・公開講座

20日 布教団総会

21日 布教団夏季布教大会

25日 寺院振興対策委員会
組長会26日 仏婦連絡協議会
(～27日 四州教区)

27日 同朋講座

28日 第4連区門推連絡協議会
(～29日 備後教区)

7月

1日 第4連区布教使研修会
(～2日 山口教区)

3日 人権問題学習会

5日 おつとめ教室・勤式練習会

11日 教堂常例法座

12日 青年布教大会(三次組圓勝寺)

16日 ビハーラ活動にあたって

21日 仏壮夏期研修会(三谿組立泉寺)

27日 まことの保育 第32回全国保
育大会第43回中四国ブロックまこと
の保育大学講座

(～28日 福山ニューキャッスルホテル)

30日 仏婦世界大会説明会

31日 ビハーラ備後実践学習(花の里病院)

予報・インフォメーション

布教団夏期布教大会

6月21日(金) 朝席10時 昼席1時

出向者一覧

朝席

第一席 苅屋光影(団員)

第二席 栗原一乗(団員)

本講 内藤昭文師(本願寺派司教)

昼席

第一席 田井智彦(団員)

第二席 那須英信(副団長)

本講 内藤昭文師(本願寺派司教)

お坊さんステーション

放送時間

月曜…午後6:10頃

木曜…午後6:10頃

FM77.7MHz  Radio BINGO

25日	23日	18日	17日	16日	14日	12日	11日	10日	4月
法式法務専門委員会	同朋三者懇に学ぶ基礎講座	仏婦総連盟総会	布教団団長・副団長会議	現地緊急災害対策本部会議	同朋社会部会	仏壮総会	仏婦総会(学びの館ローズコム)	(～12日 安芸教区)	少年連盟連絡協議会
								教堂常例法座	おつとめ教室・勤式練習会

得度許可

おめでとう
ございます

〔敬称略〕

深津組 信行寺

清水坊朋香(釋朋香)

(平成30年12月15日付)

敬弔

お悔やみ申し
上げます

〔敬称略〕

三次組 福善寺 前住職

日野 孝昭(2月7日寂)

鴨川組 願正寺 前坊守

金尾美智子(2月24日寂)

三谿組 立泉寺 前住職

一條 秀雄(2月27日寂)

芦田組 徳門寺 前坊守

田坂 文子(3月28日寂)

比婆組 明正寺 前坊守

長上 安子(4月25日寂)

世羅組 西教寺 前坊守

曾我 千里(4月27日寂)

御調束組 菩提寺 前坊守

大塚 澄枝(5月22日寂)

香典返礼

ありがとうございます
ございます

沼隈西組 光讃寺様

芦田組 徳門寺様

より香典返礼を頂きました。

人事

今般、人事の発令がありま
したのでお知らせいたします。

窪田 滋弘

(滋賀教区蒲生上組正覚寺)



この度4月1日付で備後教務
所に配属となりました窪田滋弘
と申します。新職のため、経験
も浅く、ご迷惑をおかけするか
と思いますが、一日でも早く備
後教区のお役に立てるよう精一
杯務めさせていただきます。
好きな食べ物海老と蕎麦で
す。最近野球が好きになりまし
た。ご指導ご鞭撻のほど宜しく
お願い致します。

本願寺備後教堂(毎月11日) 常例法座案内

出講者(敬称略)

6月

『いちばん素直になれる場所』

世羅組 浄楽寺
栗原 一乗

7月

『お慈悲はめくいでなあ』

比婆組 西教寺
藤井 義英

8月

『お浄土への人生』

芦田組 西圓寺
山名 諒子

メールアドレス

h2012@bingo.gr.jp

ホームページアドレス

http://bingo.gr.jp/

編集後記

数年前に「首都圏では、三組に
一組が直葬であり、火葬まで10日
待ちの現実がある」というお話を
聞かせていただいて驚いていた▲
最近、葬儀社の方とお話をするこ
とがあり、この地方の直葬の数を
尋ねてみた。すると「今月は三組
に一組は直葬でした」という答え
が返ってきた。正確な数字とはい
えないが、遠い首都圏だけの現実
ではなくなっていた▲何が問題な
のか、これからどうなっていくの
か、「無縁社会」から「無葬社会」
へと変化していく中で、どのよう
に対応し、私に何ができるのか、
教区報に掲載される様々な現代の
課題をいただきながら、仏縁を大
切にしていきたいと思えます。

(K. K)

『教区報』の編集にあたり、皆様の
ご意見やご感想、情報の提供をお
待ちしています。教区報専門委員
会まで、ご一報ください。

faxTEL (084) 924-5759
(084) 931-9323

寺院活性への道 微妙の華 mimyou no hana

お寺の「楽しい!」活動紹介 三谿組 法専寺「蕎麦の会」

いしん坊万歳」です。少々遅れて到着したが、法専寺の皆さまが既に準備を整えて、暖かく迎えてくださった。

当日のご講師は、知る人ぞ知る、備後教区蕎麦打ちの匠・杉原顕正名人であった。一方これまた趣味のパン作り歴10年以上という、実相〇〇女流名人。行程の中でも、非常に難しい「こね」の作業では、参加者が苦労する中、流石、両名人は鮮やかな手つきで皆をうならせていた。皆さんで、和気あいあい「こね」↓「のぼし」↓「切り」のひと通りの作業を終えて、いよいよ「湯がき」茹で上がった香り豊かな蕎麦を、こ

梅の花咲く、自然豊かな山あいの道を越えて、三次市甲奴町川上コミュニティセンターへとやって来た。去る3月7日(木)三谿組法専寺(加藤哲真住職)主催の「蕎麦の会」へお招きいただいた。住職、坊主さま、そして寺院関係者の皆さんが、丹精込めて育て、収穫された新蕎麦。それを皆さんで打って、いただくというのだから、蕎麦好きにはたまらない。当日は、生憎の雨模様だったが、完全無農薬の採れたて蕎麦が味わえると聞いて、遠路はるばるやって来た。これは「備後版食

意下さった「鱒の笹寿司」ともに頂く。そこには、寺院、門徒さんの垣根を超えた和やかな雰囲気があった。はずむお喋



りと、みんなの笑顔、そして、湯気立ちのぼる美味しいお蕎麦。まさに至福のひとつきを過ごした。関係者の方々、本当にありがとうございました。ご馳走さまでした。

